

今村復興大臣岩手県訪問時ぶら下がり記者会見録
(平成28年11月12日(土) 1715～1730 於) 岩手県遠野市)

1. 発言要旨

どうも皆さん今日は御苦労さまでございます。

今日は天気にも恵まれまして、いろんなところに行きましたが、大変いい勉強になりました。また、いろいろ教えていただいた方に厚く御礼を申し上げます。

今日は御案内のように、最初、大槌町の大槌学園の方に行きました。本当に、あの場で挨拶でも言いましたけれども、木の香りに包まれたすばらしい校舎ができて、もう良かったなと思っておりますし、また、それもさることながら、子供たちの顔が本当に明るくて元気で良かったなと、そう思いました。かなり時間を掛けて盛岡から行ったんですが、もう本当に感動したところであります。

こういう立派な学校ができたんだから、もう環境については言うことはない、みんな後はしっかり勉強してねと。また、学校の先生方も含めて、是非教育を充実してやってくださいと。

できればよそからも、この大槌学園に俺も行きたいと、僕も私も行きたいというぐらいの、いい内容の充実した教育をこれからやっていただければというふうに思っていたところでもあります。

そして、その時も言いましたけれども、子供たちがこうやって元気に育っていくということは、その地域の未来につながるわけですから、是非これからも我々もいろんなソフト面で、今、基盤整備からこういったソフトに力を入れようということをやっていますから、いろんなまた御相談にも乗っていきたいというふうに思っております。

それから、次は大槌の「ど真ん中おおつち協同組合」ということで行ってまいりまして、本当に厳しい中で頑張っておられる皆さん方の姿を見て、これも大変感動したところであります。

ただ、やっぱりいろんな問題があって、一つにはこのところちょっと漁獲高がもう悪いということで、それもあって仕入れ値がもう高い。そうなってくると、どうしても販売にも困るということが一つ。

そして、もう一つはそれでも頑張ってるけれども、昔と、ちょっと前と違って人出不足だということで、これも困ったなという話がありました。

だから、我々もできるだけ情報発信をして、東京という大消費地が近くにあるんだから、そこをうまく活用する方法を考えましょうよと言ったんですが、そうしても今そこでネックになっている

のは、なかなかそういう漁獲高が上がらない。それのおかげで高いというそういった、あるいはその人出不足ということがちょっとネックになっているということなので、今後これをどういうふうに解決していくかということです。

漁獲高が上がらないというのは、これは自然現象もあるからちょっと難しいかとは思いますが、人出不足等の点は、いろんな今、外国人技能者の利用ということも今やっております、今回の法案、国会でもそこは一応めどを付けたわけではありますが、そういうこともベースにしながら、ちょっと話が出たのは、それは有り難いけれども、例えば、来てくれた人たちの住まいとか、住居。そういったところはまだ不十分なんで、何とかという話がありますので、これは恐らくこの大槌内に限らず、三陸地方の水産加工業で共通する課題でありますので、こちらも是非持ち帰って、ほかの役所とも相談しながら、何とかこれに対応していきたいというふうに思ったところであります。

それから、その後、釜石市に行きまして、タウンポート大町。それから、交流センター、オランダとの協力を得て作られたミッフィーカフェを見させていただいたり、それから、公営住宅というところも視察させていただきました。

ちょうど町の中心部をやっぱり拠点にしてやっていくという、釜石ならではの構想でやっておられまして、非常に活気がまた戻るんじゃないかなという気もしたところであります。

そして、その後、橋野鉄鉱山に行きまして、いわゆる高炉の跡地等々見たわけではありますが、やっぱりこうやって見ると昔の人は偉いなど。こんな山奥に鉄鉱岳を見付けて、そしてそれを当時の正に最新技術を導入して、鉄をつくってこられたということで、私たちもやっぱりそういった先人の労苦、あるいは知恵に学ばなければいけないなということでありまして、これは世界遺産に登録されたわけではありますが、是非これから東北全体で観光をもっとしっかり力を入れてやっていこうということで今進めておりますので、そういった歴史的な資産、これはもうお金を出してはつくれないものですから、貴重な財産だと思っていますから、そういったことをしっかり活用したこれからの地域の振興策を考えていきたいなというふうに思っております。

それから、遠野市では今、本田市長さんから非常に的確な、そしてまたもう真に迫った当時の状況が目には浮かぶような説明をいただきまして、そしてこの掲示物等々も本当に当時のことが正に目に浮かぶような感じがしたわけであります。

私も実は昔、ちょっとこういう似たような経験をしたことがあって、その指揮官をやったことがあります、ああいう模造紙の裏

にぼんぼん書くということは、これはもうそれをみんな見てくれと。ああいうときにはもう混乱しますから、どうやって情報を共有するかということは、非常にこれは大事なんですよ。だから、そういう同じ手法を使っておられるなということで、大変私も懐かしく思いましたし、すばらしいことだと思います。

そしてもう一つ、私が非常にやっぱり驚いたのは、もう発災前からこの訓練、この遠野という地域の拠点性、あるいは海がない、津波も来ないという、そういったところに着目して、いざというときの後方支援拠点にするんだと。災害対策の拠点にするんだという構想を持って、そしてそれを実際に実践されたということ。これはすばらしいことだと思います。

なかなかこうやって災害が来るよ、ああだよと言ったって、みんなそう口では言うけれども、実際それを本気になって、じゃ自衛隊を動員して、みんなを動員して訓練をやるかとなってくると、なかなかこれはできないことです。これをやって何もないと、1回目はいいかもしれないけれども、2回、3回とやるともういいんじゃないかという感じになるので、非常に実際はこれはやるのは大変だし、市長さんも本当は苦労されたと思いますが、その成果があって、本当に的確なこの救援活動ができたというふうに思っている次第であります。

実は私もこの復興大臣になってから、いろんなところに行って、いろんなことを考えているんですが、やはりこれから日本の国でもいろんな災害が起きる可能性が非常に高まっているわけです。風水害もそうだし、地震等々も含めてですけれどもね。その時に、やっぱり大規模災害が起きたときに、どういうふうにやっぱり対応すればいいのかと。その時にどういうふうに対応したかということ。これはもう貴重な記録ですから、是非、今日あるように、もう全てこれは網羅をして、そしてその中でいろんな大事なことを、エッセンスを抜き出して、こういうことが大事だよ、こういうことは絶対すぐやんなきゃいけないよということ、やっぱりきちんと記録に残して、今後のいろんな何か起きたときのバイブルにしたらどうだと。

そして、またもう一つは、それをもとにしながら、前もってこういう準備をしておくという、そういったことも非常に大事なことで、言ってみれば私はこの災害防災対応のための、あるいは復興のためのアーカイブということをしっかり構築しようじゃないかということで、今、指示を出しているというところでありまして、今日はそういう意味では私が考えておったことを正にここでの的確にやっていただいているということで、大変私も参考になりましたし、これから是非こういったことを、また市長さん

からいろいろ御意見、アドバイス等を受けながら進めていきたいなというふうに思ったところであります。

以上でございますが、是非これから今日の経験を生かして、今、国土強靱化ということを言われておりますが、そういった取組等にもしっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 市街地再生の件でちょっとお聞きしたいんですが、今日、大臣が御覧になった中では、特に大槌がそうだと思うんですが、市街地が壊滅的な状態になってから、それから復興に向けて再生の区画整理とか、取組が進んでいますけれども、そうやって状況が整ってきても、家とか商店がなかなか建たないと。経済的な事情や年数経ってもう戻りにくくなった、いろんな個々の事情はあると思うんですが、そういう問題が発生しています。

しかし、やっぱり生業がないと地域の再生というのは、いかないと思うんですが、そのような問題を解決するための再建の方法とか、集積を促す国としての取組、どういうふうにお考えでしょうか。

(答) 正にこれは是非ふるさとに帰ってきてほしいということで、我々も一生懸命いろんな対策を講じています。しかし、現実問題としてなかなかそうは言っても、どう先のまちの、どういうまちの姿になっていくのかよく分からないということで、二の足を踏んでおられる方もいるわけですね。

それから、そこで行ってどういう仕事に就けるだろうとかありますから、これは例えばバーチャルリアリティーみたいな感じで、この大槌の町は今ほうだけれども、こういうふうになりますよと、出来上がりの姿をある意味じゃ分かるようにして、そこでいろんなこういう商売もやります、こういう工場もできますよということを、構想を、実際に皆さんにアピールしていけばいいんじゃないかと。一つの大きな力になるんじゃないかと。

そしてまた、さっきこの学校の話もしましたが、そういったことはもう既にできているわけだから、ああいう姿を見せて、すばらしいですよ、中身も。そういうことでいくと、ああ、じゃ戻ってみるか。やっぱりふるさとに戻ろうよという気には是非なってもらうように、これからハード、ソフト面を含めてやっていきたいなというふうに思います。

これは大槌だけに限りません。恐らく、共通の課題ですから、是非そういうことで、みんながふるさとへ帰ろうぜということを進んでいくように、頑張っていきたいと思っています。

(問) 似たような話なんですけれども、5年が過ぎて一区切りということで、ただ、御覧になっているとおりなんですよね、大槌などは。それで今、まちの人たちの不安というのは、東京五輪の方にみんな目が向いて、これからの復興に対するこの国のお金の使い方とか、力の入れ具合に対する不安がすごく高いんですけれども、大臣としてはその今、思った以上に長引いていますよね、復興まで。その辺を今後どういうふうに早めていこうとかは、考えていらっしゃると思いますか。

(答) いや、これは私はやっぱりあれだけの被災をして、その後片付けをして、そしてまたどういうまちづくりをしようかという構想があって、そして現実的に用地買収だ何だやっている中で、もうぐっと今は動き出しているわけですよ。あとは、もうとんかちやれば、出来上がってくるわけですから、かなりピッチが上がってこれはできていくというふうに思います。

あと、今、東京五輪などが心配だと言われますけれども、これは今、今年度だと（復興庁予算として）2兆4,000億円、お金付けていますよね。来年の予算だって、当初概算で2兆円要求しているくらいですから、お金のことは心配してもらわなくて結構です。これはやります。

ただ、お金だけではなかなか解決できない問題があるんでね。さっき言ったように、やはり皆さんが自分のふるさとで頑張ろうぜと。何とかよいしょしようよという気持ちになってもらう。そのためにじゃ何が必要なんだということを、しっかり今日みたいな話をしてもらえれば、我々もそれに応じてしっかりやるんですよ。これから先は我々もいろいろやりますが、まず地元の人たち、あるいは今、避難している人たちが、どういうことをしてほしいのか、そうやってもらったら我々も頑張るよという、そこをね、雰囲気、負けないで、負けてたまるかという気持ちを持って頑張ってもらおうように是非お願いしたいなということで、そのために我々は必要なことを幾らでもやりますから、ということです。

(問) 港湾施設についてなんですけど、震災で大きなダメージを受けて、その後直したりして復旧した部分もあるんですが、今年も9月に台風10号とか、また壊れてしまったというところもあるんですが、修理してもまたそういうので、高潮とか、そういった台風で壊れてしまうという現状があって、地域住民からは設計の段階でもうちょっと強度を見直してもいいのではないかという声もあるんですが、そういったところをどうでしょう、お考えとしては、その声に対してどうでしょうか。

(答) それは当然のことだと思いますから、設計がまずかったのかどうか含めてよく検証して、しっかり皆さんに不安を与えないよう

にしていきたいというふうに思っております。

ただ、そんなに、何て言うのかな、今回見ているとまだまだできている途中でやられたというのは多いですから、いずれにしろちゃんと壊れたのは直すということで、安心してもらって結構です。

(以 上)